

サステナビリティの取り組みは現場から

～協力会社とともにサステナビリティを推進



サステナビリティ朝礼(ベトナム)

サステナビリティ経営の取り組みを現場へあまねく浸透させるために、ポスターの掲示やサステナビリティ研修を実施するとともに、「サステナビリティ朝礼」や「サステナビリティ表彰」などを通じて、五洋建設グループの役職員だけでなく、現場で働く協力会社の方々とともに活動を展開しています。

サステナビリティ朝礼

現場におけるサステナビリティの認知、理解促進のために、国内、海外の現場でサステナビリティをテーマにした朝礼を毎週1回実施しています。

CO₂の削減、環境の保全、労働安全衛生の確保、DE&Iの推進、人権の尊重といったマテリアリティのテーマを題材に、身近な事例を紹介したポスターも作成しています。

一人ひとりが、各テーマの大切さを理解した上で、日々の業務の中でできることを考えて行動することにつながっています。

- 2024年9月 国内の五洋建設の現場でスタート
- 2025年1月 国内の五洋建設グループ会社現場にも拡大
- 2026年1月 海外の五洋建設の現場でもスタート



サステナビリティ朝礼ポスター(日本)



AI翻訳ツールを使用した外国人作業員への周知(日本)

サステナビリティ表彰

現場でのサステナビリティの取り組みを表彰し、水平展開するためにサステナビリティ表彰を実施しています。

職場でのコミュニケーションの工夫、環境負荷の低減、安全対策、地域社会とのコミュニケーションなど、現場での創意と工夫にあふれた取り組みの応募があり、経営層へのプレゼンテーションや活動内容の共有などを通じて、取り組みのさらなる進化へとつながっています。

- 2024年度 シンガポール進出60周年を記念して、シンガポールで第1回サステナビリティ表彰をスタート
- 2025年度 日本、香港でもサステナビリティ表彰を開始



日本 第1回 サステナビリティ表彰式(2026年2月)



シンガポール 第2回 サステナビリティ表彰式(2025年12月)

サステナビリティ経営の実践 ▶P33

多様な人材が活躍する社会の実現

～多様な人材確保・育成なくして成長なし



現場での若手技術者の活躍

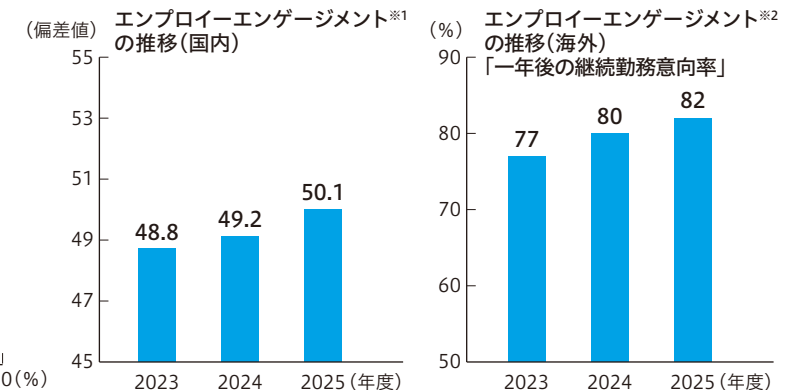
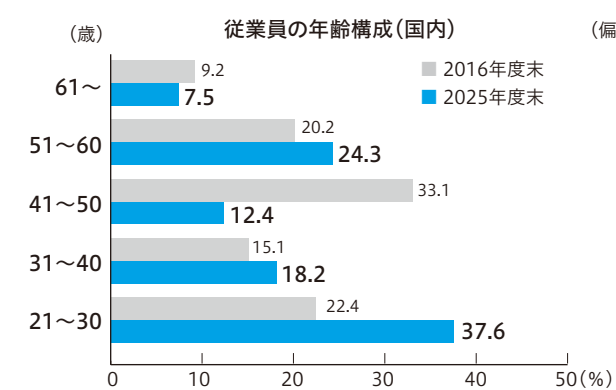
当社グループは、「多様な人材がお互いを認め合い、いきいきと働き、成長を実感できる企業」を目指し、人材の確保・育成を行っています。人材戦略に基づく施策を通じて、当社が掲げるサステナビリティ経営へ貢献し、働き手の満足度(エンゲージメント)向上を図ることで、人材の価値を最大に引き出し、当社の中長期的な企業価値向上につなげていきます。

多様な人材の確保と育成

当社グループは、サステナビリティ経営を進化させ、「良質な社会インフラ・建築物の建設こそが最大の社会貢献」という使命を果たすとともに、事業量の拡大を利益の拡大に繋げるという基本戦略を掲げています。そのためには、「フロントローディング×技術力×リスクマネジメント力×部門間連携×進取の精神」という、当社の姿勢、行動、強みを掛け合わせることが競争力の源泉であり、他社との差別化につながると考えています。

この戦略を支えるために、競争力のある処遇と働きやすい環境整備によって多様な人材を獲得し、活力ある組織を創り出すことで、「人的資本」の最大化に向けた人材育成を推進していきます。

多様な人材については、事業拡大を見据え、早期から新卒採用の強化を進めた結果、ピラミッド型人員構成に転換を遂げています。事業拡大に向けて、新卒・キャリア採用強化を今後も継続していきます。



※1 株式会社アドバンテッジリスクマネジメントによる調査 ※2 自社による調査

多様な人材の確保と育成 ▶P48

ウェルビーイングの向上 ▶P50

GXの推進 ～気候変動問題への取り組み



北九州響灘洋上ウインドファーム全景

洋上風力建設のフロントランナー

北九州響灘洋上ウインドファーム建設工事が完成、2026年3月営業運転開始

北九州響灘洋上ウインドファーム建設工事は、北九州響灘地区の港湾区域内約2,700haに、風車25基(9.6MW級)を設置し、約220MWの発電を行う大規模洋上ウインドファームの建設工事です。当社は、海洋工事等①風車の基礎工事、風車の据付、ケーブル敷設などの海洋土木工事、②O&M^{※1}拠点港の建設工事)のEPCI^{※2}契約を締結し、2023年3月に工事に着手しました(事業者：ひびきウインドエナジー株式会社)。2025年8月31日、25基目の風車据付が完了し、2026年3月に営業運転が開始されました。

※1 O&M: Operation & Maintenance(運転・保守) ※2 EPCI: 設計(Engineering)、調達(Procurement)、建造(Construction)、据付(Installation)の略



①風車基礎・海洋工事
着床式風車25基の基礎、風車据付など
海洋土木工事を担当

施工者

五洋建設・日鉄エンジニアリングJV

②O&M 拠点港工事
本ウインドファームの運転・保守の拠点
港を整備

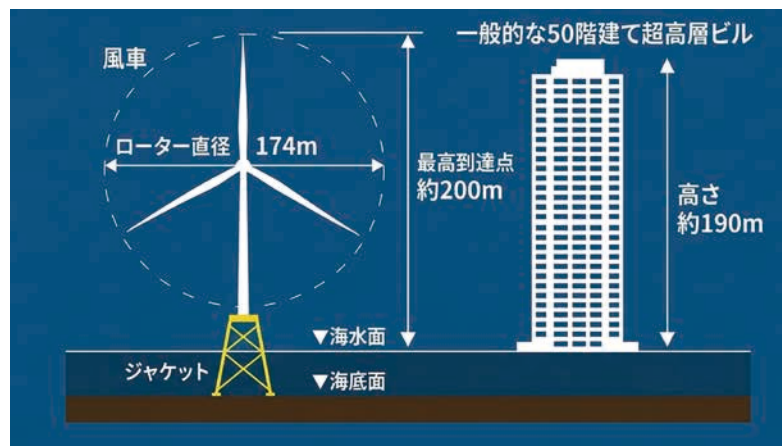
施工者

五洋建設・若築建設JV

計画の概要図
(出典：ひびきウインドエナジー株式会社ホームページ)



風車の据付状況(CP-16001)



日本の洋上風力建設のフロントランナー

我が国では、2050年カーボンニュートラル実現のため、洋上風力発電について2030年までに10GW、2040年までに30～45GWの案件形成を目指すという政府目標が設定されました。再生可能エネルギーの主力電源として洋上風力発電の供給拡大が期待されており、洋上風力建設の動きが全国で本格化しています。

このような状況の中、当社は「洋上風力建設のフロントランナー」として、本格化する洋上風力発電施設の建設需要を見据えた体制整備を積極的に推進しています。

3隻目のSEP船「Sea Challenger」アップグレード完了、台湾で本格稼働

当社とベルギーのDEME Offshore Holding NVによる合弁会社ジャパンオフショアマリン(出資比率51%)が所有する自航式SEP船「Sea Challenger」のクレーン吊能力の増強(900tから1,600t)、船幅の拡大、レグの延長等のアップグレードが2025年12月に完了しました。これにより当社はCP-8001(2018年完成、五洋建設所有)、およびCP-16001(2023年完成、PKYマリン^{※3}所有)と合わせて、3隻のSEP船を所有しています。自社船団で同時期に複数の洋上ウインドファームを建設可能な国内唯一の建設会社です。

「Sea Challenger」は2026年2月～8月、台湾の「Hai Long 3 Offshore Wind Farm」にて風車取付工事で稼働しました。

※3 PKYマリン: 五洋建設、鹿島建設、寄神建設による合弁会社(出資比率: 65%)

洋上風力関連作業船のラインアップ

風車据付			洗掘防止・作業支援
CP-8001 2018年完成 非自航(800t吊)／五洋所有	CP-16001 2023年完成 非自航(1,600t吊)／PKY所有	Sea Challenger 2014年完成、2025年12月改造完成 自航(1,600t吊)／JOM所有	CP-5001 2012年完成 自航(500t吊)／五洋所有
電力ケーブル敷設			非自航SEP船曳航・作業支援
CLV(ケーブル敷設船) 2028年完成予定 自航(ケーブル10,000t) 五洋・芙蓉総合リース共同保有	基礎施工(モノパイル) HLV(大型基礎施工船) 2028年完成予定 自航(5,000t吊) 五洋・芙蓉総合リース共同保有		かいこう 2021年完成 自航(6,000馬力)／KWS所有

※PKYマリン(五洋・鹿島・寄神)

※ジャパンオフショアマリン(JOM)(五洋・DEME)

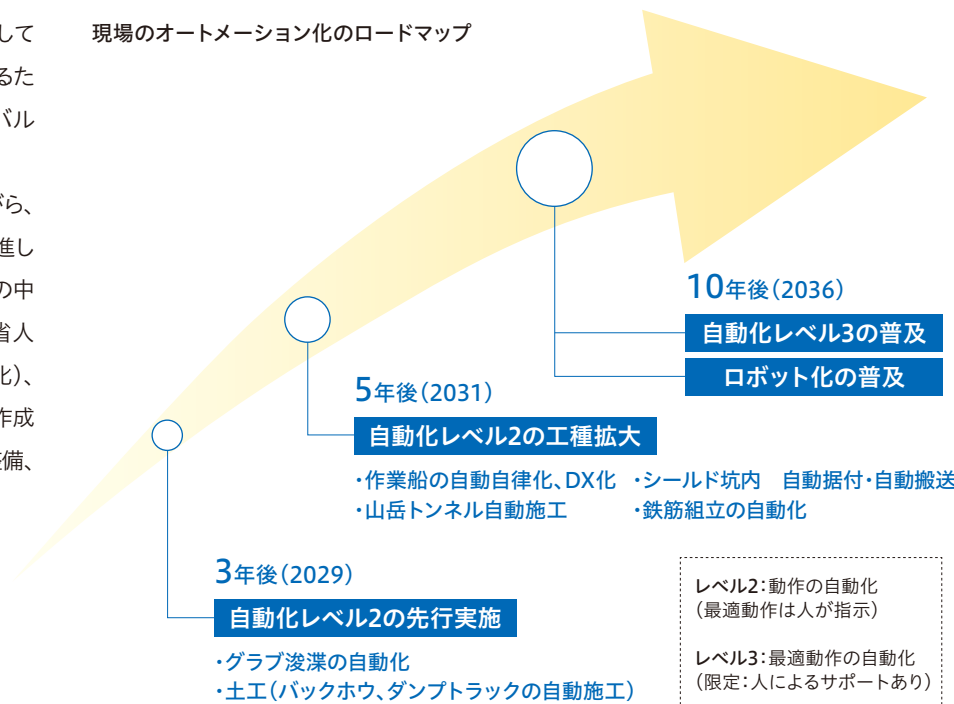
DXの推進 ～10年後の建設現場の未来を思い描く

グローバルDXセンター

2026年4月、国内と海外がより一層連携してAIとロボティクスを活用したDXを加速させるため、従来のICT推進室を発展させ、グローバルDXセンターを新設しました。

10年後の建設現場の未来を思い描きながら、AIとロボティクスによるDXの現場実装を推進します。グローバルDXセンターがその取組みの中心となり、国内と海外が連携して、建設DX(省人化、生産性向上による現場のオートメーション化)、ナレッジDX(AI活用による現場書類の自動作成等による業務効率化)、経営DX(情報基盤の整備、タイムリーな工事管理)に取り組みます。

現場のオートメーション化のロードマップ



生産性向上の取組み

国内建築: リニューアル工事におけるICTを活用した施工生産性向上

築古、かつ増改築を重ねた大型商業施設のリニューアル工事において、正確な図面が無い等の課題を、レーザースキャナによる点群測量によって解決し、現状建物の形状把握の高度化、省力化を実現しました。

課題

- ・数十年以上前に建築され、残された図面が手書き図面のみ
- ・用途変更10回以上、増改築20回以上を重ねた結果、図面と現状が不一致
- ・水平直角ではない複雑な躯体形状
- ・広大な作業エリア

効果

- ・複雑な躯体形状を足場を設置することなく床面からレーザーで正確に捕捉、手作業による測量ミスの削減
- ・足場に昇っての高所作業がなくなり、天井測量時等の安全性が向上
- ・測量コストの削減(従来の手作業による測量に比べて1/8に削減)



レーザースキャナによる測量



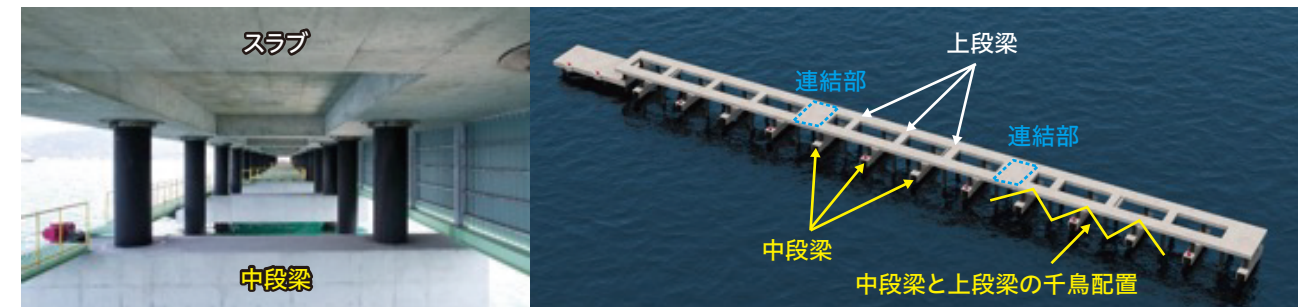
3Dスキャン結果

国内土木: 国内最大規模のPCa(プレキャスト)床板の一括架設

秋芳鉱業株式会社 新栈橋建設プロジェクトにおいて、栈橋PCa(プレキャスト)部材の徹底した統合・大型化を図り、ユニット数を極限まで削減することで、生産性を大幅に向上させました。

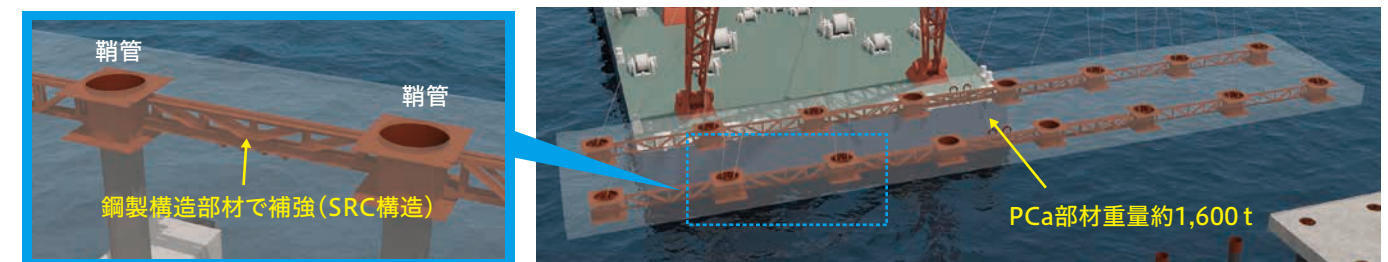
PCa部材の統合

- ・既設栈橋では独立構造としていた「本体栈橋」と「接岸ドルフィン」を一体化して、合理的な構造に変更
- ・中段梁PCa部材を新設して、防舷材取付基部・船体からの反力支持・後列杭との連結といった複数の機能を集約
- ・防舷材を設置しない杭列の中段梁を省く「千鳥配置」を採用して、PCaユニット数を大幅に削減



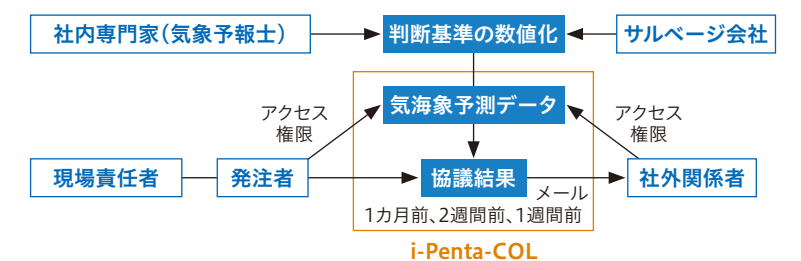
SRC(鉄骨鉄筋コンクリート)構造による部材の大型化

- ・起重機船による揚重時の変形やひび割れリスクを解消するため、PCa内部に補強鋼材を配置



自社開発システムによる迅速な意思決定

- ・長大PCa部材の一括架設に必要な「連続静穏4日」を、早期・高精度に予測する「気海象予測システム」を開発
- ・発注者や社外関係者と予測データおよび判断基準を「五洋施工情報収集共有システム:i-Penta-COL」によりリアルタイムに情報共有



秋芳鉱山栈橋延伸工事



国内最大規模のPCa床板(長さ53.8~58.4m×幅11.5m)